# 女學雜誌

明治十八年初刊

每週土曜日發兌

第三百八十四號

## 要目


### 神功皇后の征韓

むかし既に遠征の偉勳あり巾幗二人立ごころに三韓を服從せしむ何ぞ壯なる

### 有爲飛躍の好時機

凡士腰を拔かすの時は、傑士足を揚ぐるの時なり。如今正に有爲の時。志士何ぞ蹶然さして起たざるや。

### 活　風　流

風流に死活あり、似て非なるものあり、此篇巧みに眞風流の活處を辨ず。

### 基督敎社會の新聞雜誌

合計四十八種あり、誰か其多きに驚かざらん、こゝに總攬の一表さなす。

### 囑望す含雪大將

長州西鄕さは誰ぞ、半島正に事あり、切りに含雪大將に望を囑す。


明治二十七年六月十六日發兌

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

# The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

## 第三百八十四號目録


**社説**

有爲飛躍の好時機

**隨感**

住めば都なり

大人も小兒の如し

山中の松

**史傳**

神功皇后の征韓

**文しらべ**

西郷南洲遺訓

**論説**

女性と俳諧(其二)秀野

**小説**

橋松佳話(花圃女史)

放言小話二則(愛水)

**文藝**

同訓異義

**徒然草**

可憐女(容花)

**家政**

活風流(二)

花のかをりの如し

何とて美界を狹くするや

のみぶくろ

いちごジヤム

**書架**

ジヤパニース、ウイメン

大闘王

基督教社會の新聞雜誌

**片々**

女子夏季學校

一種の演劇改良

進歩的女子教育の大同盟

本意ならぬ贊同の聲

囑望す含雪大將

治安防害の取締

**海外女報**

佛國公使館付の役員◎万國婦人基督教禁酒會◎仕立屋◎ウイラード

**時報**

清流女學校の卒業式○徳山女學校○普國小學校の女教員○女生の體操男生の唱歌○看護學教授法○子守教育○大日本教育會夏期講習會○松平伯爵の女學校參觀○兒童の遊戲法○順正女學校の新築◎ブシチル女史の禁酒演説○東京美以婦人慈善會○三井銀行大坂支店女子を採用す○酒造家より撰出の代議士◎孤兒の友


Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

第三百八十四號

明治二十七年
六月十六日發兌

## 社說

# 有爲飛躍の好時機

朝鮮は、魯士亞、英吉利、支那の三國が、權力平衡の爲めに日夜掛念して措かざる所ろの活舞臺なり。然るに、今まや、東學黨の大亂ありて官軍日に日に敗退するを以て、支那は援兵數千を送り、英吉利も亦た軍艦二艘を送り、魯士亞は支那に密約ありやなしや奇怪にも沈として深かく慮ばかるものあるが如し。吾が日本帝國は、古來朝鮮と因縁あつく、ことに近年善隣の交はりあるによりて、何事にも棄て置けず、就中此回の內亂勢ほい頗ぶる猖狂なるに、朝鮮政府の力は之を鎭壓し能はざるの情況に迫りしかば、過日既に軍隊を派遣したり。半島の活舞臺、今まや、東學黨あり、閔氏あり、事大黨あり、魯士亞黨あり、淸軍あり、英艦あり、而して帝國軍隊、其の央ばに出張したり。

翻がへつて、吾國內を觀れば、第六議會解散せられ、惣撰擧、目前に迫れり。六派の連合、いよ〳〵固く、所云る國民的團結の軍勢頗ぶる猛烈なるによつて、現內閣の覺悟も亦た漸やく定まらんとす。雌雄の決戰遠からずして開かれんとする也。而して、政府員の憂事四面八方に烽起したると共に、民間志士の難澁も亦た一と方ならず、双方ともに困厄の地に立つて戰ひを促がすこと益す急なり。其の一大衝突、一大破裂の近からんこと固より明白なり。

更に、敎育界を察するに、官立學校の不平騷動到底沈壓すべからず。德育の欠乏彌よ明らかとなり、學校敎師の無氣力彌よ普通となり、軍隊組織の敎育制度は久しからずして不人望を極めんとす。これ實に有力なる師人先生を召び起すの時にして、今は即はち其改革手腕を招致するが爲め壞敗時代にあらずや。

又更に宗敎社會を見るに、神佛二敎の末路は言ふ迄もなし。



Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

新動力たりし基督教社會すら、迫害なき太平に慣れて、形式禮法の虛典横行し、死せる信條活人物を縛りて、有爲革新の傳道事業、屢ば擯斥せらる。然るに、宗教上の東方問題彌よ切迫し、立憲政體が必要する社會的基督教の教ゆる所彌よ熱望せられ、精神的の第二維新の機會益す近づき、日本が西洋基督教國と連合して亞細亞洲に外國傳道の道を開くべき時節彌よ到來し、扨て國内の教會を獨立し、其教政を革新し、日本のクリステアン初めて日本的特色を大ひに發揮せざる可らざるの大事機すでに到來せるにあらずや。

内外諸界、今は眞とに大有爲の機會を以て充滿せり。奮ふものは、茲に飛び躍るべし。否らざるものは、茲に葬らるべし。大ひに進歩すべきの大時節、故に亦た大ひに失敗するヿあるべきの大危機なり。

夫れ人間は一大惰性なり。大ひなる危機に到來せずんば、猛つて飛躍するとなし。故に虎穴に入らずんば、虎子を得ず、死地に立たずんば、吉士を得ず。國家事あり、盤根錯節の利器を要するに到らずんば、傑士は到底起たざる也。たとひ起つとも未だ大事あらずんば、熊虎は蚊蚋に及かず。細々煩々たる形式虛文の太平時代に於ては、彼の巧言の徒が勝を制せんと勿論なるべし。

然るに、今は即はち大時節とはなれり。何處を見るも、風雲大ひに揚らんとする也。彌よ烈火燃上らば、大暴雨にあらずんば消すと能わじ。亂麻の巨腕を要し、破壊の精腦を要せん日は將に遠からじ。有爲の士にありては、實に有望の時なり。凡士、腰を抜かすの時、即はち傑士足を揚ぐるの日にあらずや。

四方、事あると斯の如し。男兒、即はち出でゝ戰はざる可らず。男兒、出でゝ戰かふの時、即はち婦人家に於て尤とも爲す有るの時にあらずや。嗚呼邦家、今まや、大ひに進歩すべきの機會に到着せり。而して、此の好機會は、大危機を伏藏するの時なり。油斷大敵も此時なり。奮發有爲も此時なり。飛躍猛進も此時なり。而してあわれむべき失敗、墜落、埋葬も亦た此時なり。心あらん男女それ勉めよや。

---

黄粱富貴百年短　青史是非千載長
丞相雖存心已死　先生既葬骨猶香

# 隨感

## ○住めば都なり

われは、田舍ずまいを好み、都を距ると三里の村に家を搆ふ。門外には、一望半里の廣き畠連々として接わり、庭前には崖下數百町歩の水田を看下す。屋をめぐつて茶樹三百株、所ろ〳〵櫻樹を挿さむ、春の花失せてより近頃ろ芳香さかむなり。階前しきりに草を繁らせ、只管らに秋の虫にそなふ。時を定めて滊車の一走するとある外は、遙かに雲を銜ける製造場の煙突六七、横に煙をたゞよはせて遠山を隱見の中にあやどる。門を入りて五十間。戸に接して書齋を置けども、來客多からざるによりて煩わしきとなし。遙かに街路にひゞくものは、大八車の轟ろき、赤羽根兵營にかよふ士官が馬のひづめの音のみ。去年、こゝに居を定めたる初めは、田舍ずまひの趣味新鮮にして、折々は寂寥を感じたり。隣家に鳴く鷄の聲も、夜間はるかに聽きし犬の遠吠も、これぞ都にはなきものと心にしみてうれしかりき。出入する物うる人の調子も何となく質朴らしく、彼等はあまり金錢を貪ぼらぬならんと床し氣なりき。たま〳〵路傍の子供にあまれる品をやれば、其が親なるもの丶來りて禮いふ躰たらく如何にも忠實らしく見えたり。此に於てか、われは田舍に住ふなりとの感觸つねに斷ゆるとなく、生來の趣味滿足して、身は何々農夫など號してひそかに愉快の情をもらしたりき。

然るに、此の感觸はいつとなく枯硬し、慣るるに隨がひて近傍は自からにぎわしく成り初めたり。夕方、村の若い衆がそゞろありきする時は、村內とかく繁華となれりと思はれ、一月二度の緣日に村のはづれにお祭りあれば、殊の外の雜沓なりと珍らしく、元の戸長、今の村長、二ヶ所の小學校長などと折々談話すれば、其交際も淡泊ならず。はじめ門の入口には安息蘆と標札うち、牛乳屋の書出しにも、安息蘆樣と認ためたるほどなりしが、遂に本姓名を掲げざる可らざるに至り、此の田舍ずまいの隱れ家の主人も、今は儼然たる村內の一レチズンとはなりけり。

之よりして、折々、筇を野外に曳き、逍遙散歩の境を村外に





Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

もとむることとなりけり。斯くして、樹しげり、家少なく、鷄犬はるかに呼應するなどの邊りに至れば、あらたに田舍野畦の趣むきを感じて、あゝ田舍ずまいは樂しかるべし、吾も田舍に住ひたきもの哉と思ふに至れり。然るに、都より來訪の客あつて吾爐に來れば、切りに風景に見とれて吾が居を賞めこゝの田舍ずまいを羨やむが如し。その時初めて吾は現に田舍と見らるゝ所ろに住ふなりと心付くなり。

われは、此に至りて初めて「住めば都」と云へる古諺の新意義を感じたり。まことや、住めば、いかなる田舍も都とはなるなり。

すべての事業また如此し。すべての地位また如此し。こゝに於てか彌よ現住安心の秘義をさとる。

## ○大人も小兒の如し

三才の吾が童兒、小さき木馬をもらひ、或ひは之を引き、或ひは之を押し、或ひは之に跨がり、或ひは之に語り、愛玩して止まず。あるときは眞面目に母に問ひけるは、坊がチン馬は、何時、牧野さんとこのお馬のやうになる／牧野とは陸軍士官にして馬を蓄へる人なり。吾が童兒は、其木馬が追々成長なり、遂にかの陸軍士官の馬の如くなるべしと信じ居る也。人々之を聞きて連りに笑ふ。童兒、その笑わるゝ所以を覺らず、また姉と共に熱心に石を積むに、積んで四五に及ばず、幾度びか崩る。われ此狀を見聞し、筆を投じて歎じて曰く、あゝ大人も亦又如此き耳。成功す可らざるの基礎に事業を結構し、その半途に倒るゝことを知らざるもの比々として多きにあらずや。金錢より至誠を産み、才巧を長じて靈聖を得、方便を用ひて至善に達せんとするが如き輩は、豈に木馬の活馬となることを待つものにあらずやと。あゝ何んぞ大人獨り智慧ありと言ふ。彼等は亦た成長したる小兒にあらずや。

## ○山中の松

眞山民に詩あり、云く、

我愛山中松、歳月歴已深、氷雪凍不死、假蹇岩之陰、
雖然石底栞、幸免斧斤尋、時々清風來、松頭自微吟。

時々清風來、松頭自微吟。誰か此の消息を自得するものぞ。



Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

# 史傳

## 神功皇后の征韓

井上次郎

後漢の朝、天の命を失ひ、董卓、袁術、曹操等、相ひ爭そつて重器を覬覦するの頃ほひ、日本帝國の無上絕對なる尊位は、優に一女性を戴だきて盛んに國威を海外に顯昭せり。

仲哀天皇、征師を出し玉ふの央ば、九年二月忽ちに惱み玉ひて、翌る日、筑紫の橿日の宮に崩御せらる。時に、皇后、氣長足姬尊（後の御謚を神功皇后と申す）御年やうやく三十二。熊襲、いよ〳〵猖獗、新羅はるかに應援して、反亂の氣運尤ともすさまじき折柄なり。左り乍ら、支那に在ては、去年、劉備、兵を徐州に起して、奸雄曹操を討ちしとかや。本朝に在ては、前古未聞の遠征軍、開闢最初の勳ほしを立つ、眞とに贊美すべき一大時節にてありける。

皇后、御年わかかりし頃より、御性、聰明叡智にして、御顏はせ最と壯麗に、御丈け九尺、御齒一寸五分、靈異の御姿、見るもの敬畏せずと云ふとなし。

天皇は、これ日本武尊の御子なり。御顏、端正、威風堂々、御丈け一丈に過ぐ。御位に即かせられて、撥亂反正の御心つよく、親から師を出して屢ば天下を平らげ玉ふ。此の天皇にして、彼の皇后あり。紀元以后十四世、日本はじめて盛んに國威を顯揚せんとて、則はち此の二柱は出でまし玉ひける。

天皇、西方平定の御心あつて、宮を長門の豐浦に置かせ、遂に親征して筑紫に幸ゆきし、直ちに進んで熊襲を平らげんと爲し玉ふとき、皇后、徐むろに諫め玉ふらく、

天皇、熊襲の服從はぬとを愛れひ玉ひぞ、そは只だ空しき國のみ、いかで兵を擧げて伐ち玉ふに足らん、然るに西の方、この國にまされる國あり、美女が眉を引たらん如く、海の彼方に見ゆる美き國にて、金銀を初めにし、目の輝やく種々の珍らしき寶、其國に澤なり。國の名を新羅と云ふ。もし新羅まつろひなば、熊襲は自づからにして服從せん

と。蓋し、根を拔きて幹を枯らすの策なり。當時、通信極め

て疎に、地理甚はだ明らかならず。天皇は、果してかゝる國のあるものにやと、則はち山に登つて初めて遙かに望見し玉ひけるほどなるに、皇后早く先づ此の智識あらせ、又此の卓見あらせ玉ふこそ恐ろしけれ。たとひ皇后の御母方は、新羅國王の種にして、天の日桙が六世の孫に當り、もとより海外の形勢を傳へ知り玉ふたるに多少の因縁はありと云ふと云ども、當時に在つて尚ほ如此く明らかに知ろしめし、如此く賢く思ひ計らせ玉ひける所以のものは、必竟、皇后が非凡の卓識あらせ玉ひての故に因らんこと勿論なり。

斯かるうちに、天皇俄然として崩れさせ玉ひ、皇后の御歎き盡きがたしとは雖ども、御子尚ほ懐胎に居まして、遺志を嗣ぎ奉らんもの、皇后の外にあらざれば、皇后は則はち毅然として自から大ひに任じ玉ひける。

皇后、先づ大臣武内宿禰、大伴武以大連、中臣烏賊連、大三輪大友主君、物部膽咋連に詔り玉はく、天下いまだ、吾が皇の崩御を知らざることそよけれ、百姓之を知りなば懈怠すべしとて、御喪を秘くし、御屍を收め、武内宿禰をして長門の豐浦宮に火なき殯斂を爲さしめ、次に、荒木田佐波をして伊勢の大御神に祈らしめ、群臣百寮に令して國の大祓ひを爲さしめ、更に齋宮を小山田の邑に造りて、皇后自から入坐し、武内宿禰をして御琴を彈かしめ、中臣烏賊津使主は審神者と定め、千繒高繒を琴の頭尾に置き、盛んに祈禱して、御神の教を請ひ玉へり。

御處置整々として要緊に中たり、御進退、綽々又た堂々たり。群臣百寮、敬畏して服し、人心一和して只管ら大御神の示誨を待てり。皇后、こゝに於てか、先づ鴨別の命を遣わして、熊襲を征せしむるに、幾時もあらずして服す。時に、羽白熊鷲と云へるもの、強悍にして出没不思議、たとへば身に翼ありて空を飛び翔るが如し、朝命に從わずして屡ば人民を掠奪せしかば、皇后、撃つて其黨を殲ぼし玉ふ。又、山門の郷に、穴居の賊、夏羽、田油津媛の兄妹あり。王師に服せざるにより、媛を誅し、兄を走らす。軍氣こゝに至りて彌よ振ふ。

皇后、則はち、海を渡つて新羅を征せんとて、復た大ひに天神地祇に祈り、其の示誨の驗然なるとを群臣に告げ、髮を結んで髻となし男裝して大元帥となり、先づ諸軍に詔りすらく、

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

夫れ師を興して衆人を動かすは國家の大事にして、安きも、危ふきも、成らんも、敗れむも、必らず之より起る。然るに今ま征伐の大事を群臣に托して、事もし成らず、其罪をうけんと傷ましき事なれば、朕、手弱女なりと雖ども、暫らく丈夫の貌となりて、上は天津神、國津神の御靈のふゆを蒙むり、下は群臣等の助けに由り、兵甲を興して嶮浪を渡り、船師を整のへて財の國を求めむ、事成らば群臣ともに功あるべく、事もし成らずんば、罪は朕一人にあらんと。

群臣恐惶して、御答へ申すらく、皇后、天下を泰平に治め定めんことを謀らせ玉ひ、かつ罪を臣下に及ぼさまじと詔のり玉ふ、いとかしこき事とて謹しみ拜みて御言のまゝに從がひ奉らんと申す。

神后皇后攝政元年秋九月十日、諸國に詔りして、船舶を集つめ、軍士を召し、兵甲を錬らしめ玉ふ。かくて、吉日を卜なひ、諸船を發せんとするに臨み、皇后親から戈を執つて軍頭に立ち、令し玉ふやう、

金鼓わきだめなく、旌旗まがひ亂れなば、軍人とゝのはじ、財を貪ぼり、欲多く、私を懷ひて内に顧りみせば、必らず敵のとりこと成らん、敵少なくとも侮どることなく、敵多くとも恐る可らず。御軍に仇なすものは許す勿れ、自から服するものは、殺すべからず。戰かひ勝つ人は必らず賞あり、逃走るものは必らず罪あらんと。

則はち筑紫橿日宮を發して、糟屋郡、資珂嶋に泊し、又、肥前松浦郡逢鹿驛を過ぎ、次に鞆驛を經て彼杵郡、周賀郷に至り難風にあひ、やうやく壹岐島に着し、更に對馬島に泊し、冬十月三日和珥津を發し、御軍を整のへ、御船を連ねたまふに、高飛ぶ鳥も往き來ず、前を遮らず、海中の大き小さき魚どもも悉とく御船を負ひ、おひ手盛んに吹き、御船、櫨棹をからず、波のまに〳〵行きて新羅に安着す。時にツナミ新羅の國岸を覆ひ、人皆な恐怖せる折柄、更に船師海に滿ち、旌旗日に輝やき、笛鼓鳴動して山川みな振ひしかば、新羅王望見して大ひに怖れ、戰はずして降り、圖籍を封して皇船の前にひれ伏し奏しけるは、今よりゆく先き大皇の命のまに〳〵、御馬飼として常とはに仕へ奉らん、東より出る日の更に西に出で、ありなれ河の逆さまに流れ、河の石の昇りて天津星と





Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

化るまで、もし春秋の朝貢を欠ぎ、梳鞭の御調を止めば、天津神、國津神、共に罪なひ玉はんと申せり。

時に某、新羅王の變節常なからんとを察して之を誅し玉へと奏せしものありしが、皇后の詔玉ふは、朕軍中に令して自から服するものは殺す勿れと言ひしに、今また之を破らんやとて、則はち之を許し、御飼部と定め、重寳を入れたる府庫を封じ、圖籍文書を取収め、矛を新羅王が門に衝き立て、大矢田宿禰を留めて鎮守將軍とし、王子微叱己知を質とし、金銀、綾羅、縑絹など八十艘を献ぜしむ。

高麗百濟二國の王、人をして密かに吾軍の形勢を探らしめしに、到底及はざるを知りて、自から御營の外に來り、叩頭して罪を謝し、今よりゆくさきは永く西の御臣國として断えず貢物を奉まつり仕へまつらんとぞ白せり。

嗚呼、神功皇后、巾幗の身を以てして、三軍を激厲し、國の大喪に居て能く士氣を振作し、師を出してより日を經ると二月半に過ぎずして、既に三韓を服す、唐の太宗は兵八十万を以てして攻めて皆な降すと能はず、隋の煬帝は百二十万を以てして尚ほ少なしとし、豊公の勇を以てするも尚ほ十三万を要しつるに、皇后の兵盖し數千に超へずして忽まちにして此の偉勳あり、史家が之を奇異なりとして、功を全く御神に歸する所以のもの亦た已を得ざる也。

十月三日王師、對馬を發し、十二月十四日、皇后、筑紫蚊田邑に還御あり、應神天皇を生み玉ふ。天皇即位の日に至るまで、皇后、位を攝して、在位六十九年、只管ら國威の顯揚、治世の泰平に御心をかけさせ玉ひ、亂を治め、仁政を布き、就中、國權を張り、海外の文華を採益するとに御力を盡されたり。使を魏の國に遣はして、其地形風俗等を窺はせ玉ひしは、第三十九年なり。又、使を晋に遣はされたるは、第六十二年なり。新羅、朝貢を欠くときは、直ちに討つて之を懲らし、又北自本、南加羅、喙國、安羅、多羅、卓淳、加羅、の七國を平定し、更に兵を西して古奚津に至り、南蠻忱彌多禮等を降らしめたるは、第四十九年なり。

大日本の歴史には、如此き偉勳あり。而して、此の偉勳は、婦人の手によりて、容易すく成就せられたり。婦人とは、皇后の御事のみならず、更に一人を加ふべし。皇后の御妹に虚津姫命と申すあり、皇后を助けて渡韓し、同もに甚じき御

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

いさほしを建て玉ひ、歸朝の後ち今の豐前豐後を領して、韓國の鎭壓とならせ玉ひける也。

對外軟、對外屈。あゝ、汝等は、神洲古來の歷史に存せざりしものにあらずや。

## 文しらべ

# 西鄕南洲翁遺訓（三）

（二十四）。道は天地自然の物にして人は之を行ふものなれば天を敬するを目的とす天は人も我も同一に愛し給ふゆへ我を愛する心を以て人を愛する也。

（二十五）。人を相手にせず天を相手にせよ天を相手にして己れを盡し人を咎めず我か誠の足らざるを尋ぬべし。

（二十六）。己れを愛するは善からぬことの第一也修業の出來ぬも事の成らぬも過を改むることの出來ぬも功に伐り驕慢の生するも皆な自ら愛するが爲なれば決して己れを愛せぬもの也、

（二十七）。過ちを改るに自ら過たとさへ思ひ付かば夫れにて善し其事をば棄て顧みず直に一歩踏出すべし過を悔しく思ひ取繕はんとて心配するは譬へは茶碗を割り其缺けを集め合せ見るも同にて詮も無きと也。

（二十八）。道を行ふには尊卑貴賤の差別なし摘んで言へは堯舜は天下に王として萬機の政事を執り給へ共其職とする所は敎師也孔夫子は魯國を始め何方へも用ひられず屢々困厄に逢ひ匹夫にて世を終へ給ひしか共三千の徒皆な道を行ひし也。

（二十九）。道を行ふ者は固より困厄に逢ふものなれば如何なる艱難の地に立つとも事の成否身の死生抔に少しも關係せぬもの也事には上手下手有り物には出來る人出來ざる人有るより自然心を動す人も有れ共人は道を行ふものゆへ道を踏むには上手下手も無く出來ざる人も無し故に只管ら道を行ひ道を樂み若し艱難に逢ふて之を凌んとならば彌々道を行ひ道を樂む可し予壯年より艱難と云ふ艱難に罹りしゆへ今はどんな事に出會ふ共動搖は致すまじ夫れだけは仕合せなり。

（三十）。命もいらず名もいらず官位も金もいらぬ人は仕末に困るもの也此の仕末に困る人ならでは艱難を共にして國家の大業は成し得られぬなり去れ共斯樣の人は凡俗の目には見



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

得られぬぞと申さるゝに付孟子に天下の廣居に居り天下の正位に立ち天下の大道を行ふ志を得れば民と之に由り志を得されば獨り其道を行ふ富貴も淫すると能はす貧賤も移すと能はす威武も屈すると能はすと云ひしは今仰せられし如きの人物にやと問ひしかばいかにも其の通り道に立ちたる人ならでは彼の氣象は出ぬ也。

(三十一)。道を行ふ者は天下擧て毀るも足らざるとせす天下擧て譽るも足れりとせざるは自ら信するの厚きか故なり其工夫は韓文公が伯夷の頌を熟讀して會得せよ。

(三十二)。道に志す者ば偉業を貴はぬもの也司馬温公は閨中にて語りし言も人に對して言ふべからざる事なしと申されたり獨を愼むの學推て知るべし人の意表に出て一時の快適を好むは未熟の事なり戒むべし。

(三十三)。平日道を踏まさる人は事に臨て狼狽し處分の出來ぬもの也譬へは近隣に出火有らんに平生處分有る者は動搖せすして取仕末も能く出來るなり平日處分無き者は唯狼狽して中々取仕末どころにはこれ無きぞ夫れも同しにて平生道を踏み居る者に非れば事に臨みて策は出來ぬもの也予先年出陣の日兵士に向ひ我が備への整不整を唯味方の目を以て見ず敵の心に成りて一つ衝て見よ夫れは第一の備ぞと申せしとぞ。

(三十四)。作略は平日致さぬものぞ作略を以てやりたる事は其迹を見れは善からざると判然にして必したり之れ有る也唯戰に臨みて作略無くはあるへからず併し平日作略を用れは戰に臨みて作略は出來ぬものぞ孔明は平日作略を致さぬゆへあの通り奇計を行はれたるぞ予嘗て東京を引きし時弟へ向ひ是迄少しも作略をやりたる事有らぬゆへ跡は聊か濁るまじ夫れ丈けは見んと申せしとぞ。

(三十五)。人を籠絡して陰に事を謀る者は好し其事を成し得る共慧眼より之を見れば醜狀著しきぞ人に推すに公平至誠を以てせよ公平ならざれば英雄の心は決して攬られぬ者也。

(三十六)。天下後世迄も信仰悅服せらるゝものは只是一箇の眞誠也古へより父の仇を討ちし人其の數擧て數へ難き中に獨り曾我兄弟のみ今に至りて兒童婦女子迄も知らざる者の有らざるは衆に秀てゝ誠の篤き故也誠ならすして世に譽らるゝは僥倖の譽也誠篤ければ縱令當時知る人無くとも後世必す知己有るもの也。



Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

# 論説

## 女性と俳諧（其二）

秀野

和歌といへば、優に美しきものと思ひ、俳諧といへば、何となう、うらがれはてゝ物寂しく、賤しきものと、おもふもの世には多かり。三十ひと文字を詠ずるをきゝては、麗しき上臈の翠簾かゝげて、月を眺むる風情を想起し、十七言を吟ずるをきゝては、眉雪の老法師が香焼き、珠數爪操るによそへさなくばむさくろしき俗人の徒に人に媚びて、黒紫色の唇ふるはし、黄なる歯をむき出でゝ、おどけ戯るゝ姿を思ふ。これもまた一應の理りなきにしもあらず、演劇は河原ものゝ、たはぶれ事にして士君子の觀るに堪へざるもの、三絃は淫聲にして、これを聞かば耳の汚れとならむなど、公言して憚らぬものさへあるに、斯る頑なるやからの俳諧をもて、賤しむべしとなすも、謂れなきにあらず。去れど苟くも新時代に生れ出でたる人にして、なほ斯る迷想に陷りて起つこと能はずむば如何にせむ。俳諧は平民的文學なりと、近きころより云ひ傳ふるを聞きて。果ては下等文學なりなど、あたり、かまはず、ほざくものありといふは信か。嗚呼、われは斯る人々の暴語を悪むとゝもに、斯文學をみるのまなこなきを憐まずむばあらず、若し斯る人々の俳諧を知ずして、かくいふものならむには、われはかれ等が芭蕉及び二三俳士の句集を繙き讀まれむことをのぞむ。若し讀むでなほかゝる暴語を吐くものならむには、再たび讀み、三たび讀み、四度誦し、五度誦し、讀むで倦まず、誦して已まず、咀嚼含味につとめむことを切にのぞむ。

俳諧を文學上より解釋せむには、滑稽詼諧の意義ならむ。去れば眞面目に詠まで、詞をあやつり、想をおかしく構へて、たはぶるゝ間に巧を弄するもの、これ俳諧發句本來の面目ならむ。この道の始祖ともいひつべき松永貞德、及其門葉は辭の綾に心をこめ、筆の走りにおもしろみを寓しぬ。彼の西山宗因の談林一派は、更に一段の歩武を進め、縦横無盡に馳驅したりき。而して松尾芭蕉、忽然として、正風の俳旗を翻すや、斯道こゝに一轉し了んぬ。芭蕉の俳諧は、俳諧にして、俳諧にあらず。この間の消息は、我はかなき『俳諧史傳』に



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

於て略、描寫したるつもりなれば、こゝには多言せずたゞ要あるところのみをいはむ。

芭蕉の俳諧は、俳諧にして、俳諧にあらず。彼の俳諧は、漢詩に對し、和歌に對し、更に一新詩界を開拓せむとしたりしなり、豈に猥りに貞德、宗因の殘肴を舐り、おどけに安じ、おかしみに安じたるものならむや。華燦可なり、悲壯可なり沈痛可なり、幽遠可なり、閑寂なるもの、艷冶なるもの、輕妙なるもの、勇快なるもの、豪宕なるもの、悉く咀嚼し、悉く消化し以てゆたかに我詩腸を肥して、夫の美地の美に至らむとす。

かれは性として幽靜を好めり、閑寂を好めり。されはかれの俳句は艷やかならずして、もの寂びたり。然れどもかれ弟子の豪放婉麗、古淡、素朴その性の殊なるにしたがひ、さまざまなる調あるを容れます〳〵各個の特想を發揮せしめむとしぬ、未だ嘗ておのれの好むところに癖して、小規摸のうちに束縛せんとはせざりき。芭蕉か俳諧の胸腹は淵大なり。常にいへらく、この道こゝに出でて百變万化す、俳諧は未だ、俵の口をとかずと。

俳諧は賤しき文學なりなど、のゝしるはいふにしも足らねど俳諧は女性の方々には、ふさはしからぬ業なりなどいふも一面を視て、他面を見ざるもの〻痴言なり。

千代が句には、いづれも有髯男子をして、後に瞠若たらしむるもの多かれど、

　水の皆き水の消したり杜若

　水音は水にもどりてくいな哉

などの句、水の詞を重ねて、巧に綾なしたるさま、玲瓏珠の如く、いとうるはし。かゝるところこそ、俳諧獨占の長所なれ。

　春降し雪にて雪は消にけり

なども、また前二句と同じ姿ならむ。

　あかるふてわからぬ水やけふの月

清光水に映じて、水に色なき風情。

　近よれは水はなれて櫻かな

萬朶の花、倒影して水、雲と接する風姿。所謂、鏡花水月の致、

　淋しさは閒人にこそ閑古鳥

分入ば風さへきへてかんこどり



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

　翌の夜は寐させてくれよ時鳥
　　男さへきかれぬものを郭公

女子の情いづこまでもやさしく床し。淋しき閑古鳥悲しき時鳥の鳴く音、清婉幽邃、情念揺蕩し來つて聞くに堪へず。

　きじ鳴や思はぬともおもふころ
　雉子の戀身にあまるから聲となる

など可憐の情、掬すべし。

かゝる俳句をもつて、和歌に比せばいかに、これにてもなほ俳句はいやしきものなるか、女性にはふさはしからぬものなるか今めきたる詞をよろづ俗なりと賤しみ、古ぶりの辭を雅なりとたゝへ、花は、よし野、月は、三笠の山、枕ことばに骨折り、てにをはに齷齪し、固陋に安じ、偏狹に流れ、昔しの歌仙たちの足跡を追ふて、かへるを知らず、たゞこれをもて雅なりとなし、かれをもて俗なりとするは片腹痛し。

思ふに、千代は詩に於て天才を有したるならん。而してかれが性は、きはめて温和にきはめて輕快にして、陰鬱の氣なしと覺ゆ。

　十六夜の闇や恥かく人もあり
　何事かある身にはよし朧月

など打興じて、いやしからぬもおかしからずや。しきりに邊幅を修飾する似而非道義家は、さほどにもあらぬ事を兎や角、論ふて我は顔するものあれど、こはその心のゆがめばなり。

　白菊や紅さいた手のおそろしき

この一句、詞のとりあはせも妙に想を構ふる、いとうるはしけれど、純潔なる白菊に對して紅粧せしわが姿を恥づるの情千代が氣品をして、一等高からしむるにあらずや。野の花の一瓣、空の鳥の羽一片、何れか造化の心をあらはさゞらむ。粉粧修飾をもて、天眞爛熳の美を損ずるは、悲しむべきにあらずや。今の世の流行を競ひ、派手を尊ぶ女性の方々、この一句よく〳〵心して味ひ給ふべし。

女子には男子の思ひ及ばぬ心やりあり、眼のつけどころ、よろづ細くやさし。情波、微動したるのさまよろこぶべし。

　紅さいた口もわするゝ清水かな
　鍋洗ふ流れはづかしかきつばた
　何着ても美しうなる月見かな
　月見にてかげぼしかるや女子たち



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

けふばかり男をつかふ田植かな

これらの句は、女子ならねばいふ能はざるもの。たれか俳句をもつて賤しきものとなし、寂しきものとなすぞ。由來、俳諧世の俗士にあやまらる。嘆ずべきかな。(此稿未完)

# 小説

## 橋松佳話

花園女史

### 第四回

### ゆきあひの橋(下)

全島三ヶ國の内に、セイボンは既に死せり、遁せし男子女子いづれも此島にて育ちしもの、アルハベットをも書得ぬほどの無敎育まして年わかければ人の信用もあらず、葡萄牙人のブラホー父子財產は全島中第一といはるれど、此又讀書をもなし得ず、さればこれまで何事にも少し六ヶ敷となれば、平生はともかく、ウエブをたのみ取計せし事なるに、そのウエブも今はあらず、たゞブラホーの方に食客となりゐるウイリヤムは、いつも酒のみ好みて村方の厄介ものなれば、米國の生部の小村役所に書記とやら初めしと、いつも自慢するほどありて、いさゝかの書取も出來得るなればとて、ブラホー先立て袋澤のメーズまでをも呼上げ、船中につきて撿視せり、初にはハースが死骸胸板に一ツの銃創これ獨乙人が打殺したるに相違なしそのほかにもハース手下の三人貳人は即死、いづれも頭部に銃創あり、壹人は命はつゝがなきもこれまた肩先に銃創あり獨乙人は牛刀のつき創にて斃れたるがこれか下手人なりと名乘るは、ハースが手下にて仇を報し且正當防禦をなせし者なり、たゞミッセスウエブのみはいかにして殺されたりやはしれざれども、創は正しく重き木材やうのものにて打しものにて行兇人の獨乙人は、恰も丸太を手に持てり、是又獨乙人の打殺せしに相違なし、日本人笠原信太郎、われこの時はしか名のれるなり、これはウエブの妻の事につき、ウエブの財產のことにつきて、ハースに尋問する廉ありて、恰も此騷動に出遇正當防禦の爲に手向ひせしことありしも、幸に自からも傷かず、また人をも傷ざりしは、ハース手下の者の證言あり、もとより罪なきものなりと一同の裁判は定り



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ぬ實に天網恢々なりといへどてき面の因果、ハーヌは人を欺き人を劫かし、ぬすみし金に榮耀を貪りしも、あへなく獨乙人の筒先に斃れ、獨乙人も母島に覇を稱して深樂に耽りしもハーヌが手下の刃に命をおとしたる天罰のいやちこなる、手のくるひとはいふものゝ、われもまた婦人一人をころしたり、その塲の裁判はわがせし業とならざりしも僥倖といはばいへ、いかで心に愧さるべきいかで天罰のあらざるべき。されどウエブの妻の死せしも、おのれが罪に死せしなり、わが手をかりて天道の罰したまへるなり、眼前の應報を見るにつけ、またわが身のおそろしく、自からその身をころして、わが好友にいひわけせんとまで決心せしもわれもまた、望みある身、かゝる事にあたら命をすつべくもあらじとおもひとゞまりゐたりしが、ウエブが島人の報知を得て便船もて歸り來りしときは、わが心くるしさはいかばかりぞ、況んや、かれが伉儷にあつき、たゞそのとのみいひ出で、取戻せし金示すにつけ、これありてもなにかせんと、たゞ愁にのみ日をおくりしが畢竟は此島に政府なければ、かゝる事のおこるなれど一書を日本にある英國公使に便船もておくりたりしも、重き愁に氣もうかず、そのまゝに日を重ねしが遺書を殘して姿をかくしぬ。

かれはまた、そが財産を引受たるは千ドルラル余りなりけりウエブの性の醇良なる妻のかたきともしらでかはた遂に聞しりても、われを信じその遺産をもおくられしをおもへ〳〵は罪に罪をかさぬるおそろしさ、今はつゝむにつゝみかねて、其妻の墓の前に罪を日毎にさんげして朝夕の花たやさずたむけぬ、あの山の麓を見よ大きなる石の立てるは即その「ウエブの妻のおくつき、わが罪は埋ふもあへぬ處ぞやかくて年月をおくるうちに、われのみは因果應報の天理にはづれすることとなすこと仕合よく、此島再ひ日本の所屬とさだまり、移住の人々つどひ來り、司の廳もおかるゝに至りては此島に住居せる日本人の先達とうやまはれかのウエブより讓受し金額もすべての興業の資本におろし、年々に收むる利害は計りしれず、猶もこの地の爲に興すべき利なすべきわざして、せめてはウエブが手柄とし、かたみとして此島にしのこしたしとの長物語を橋本は靜かにきゝおはりてといきつき「今わが國には南洋に事業を起さんとはかる人々多く、この島などはせま



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

けれども、猶遺利の興すべきもの多かるべし、おのれも兼て望むところもあれば、此後も度々は渡航して御志のほどは御手助をいたしたし、されどさしむき父君には老の御身にみつからたかやし、すなどりかゝる所にゐ給ふ要なし、幸この度とも／＼に東京に歸り給ひ、その系統もあきらかにして、わか幸をも得させ給へ、ましてこれまで米英獨乙等の人々にも交り給ひ、その言語をも諳じ給へるのみか、漢籍の素養もあらせ給ふ御身日本へかへり給ふとも天晴人の尊敬をも受給ふべきに、かゝる所に一生をおくり給はんはをしきかぎり也と、いふをきゝもおはらず、信天翁は橋本の顔うちまもり、われは懺悔にわかき時の物語りせしも此まで親らしきこと一ツせぬわれなれば、教訓のはしにもとおもふてなり、さけは系統しらべてその身の幸にせんとは何事ぞ、八丈島の孤子橋本某となのりて世に立てこそ、おん身のほまれ、おん身の幸ともいはれなん、華族の肩書つけて、その身の光りとおもふおろか實に見下げはてたり、人ははじめのほどは志も鋭くいかなる艱苦にもあたらんとおもふも、やゝ人中に出るときは、はやおこたりたゆとふが習なり今となりて華族となのりたくなりしは、その習ひにもれず、中折せしな、くちけしな身は乞食の子にもあれ、高位高官の子にもあれ、それらが何ほどの事業のたすけをなし身の光を生ずべき、又父を東京にともなひ、かへりていかにする、百里千里もあるくべきあしを車にのせて僅に一里二里の道を行かせジヤがいも三四塊にふくるゝ腹に山海の珍味にあかせ、襦袢一枚に寒さしらで過すべき身に臘虎の皮、紺緞子着て暖をとらせんとか、儒者の道に志を養をは孝道の一といへり、それがなんの孝養ぞ、人は働だけ、働くがよし、われは働くが第一の幸福、第一の快樂、寝てくらひ人々の何の爲に生てゐるかをあやしむ、この信天翁か、志やしなはんとはおもはぬか、こはわが志のみならで、我子にもしかあれかしとねがふなり、はたらけ／＼、人の爲、世の爲に、はたらきてわか身の爲をおもふなよ、幸に見るかごとくげ、ふさはしき配偶見かけは穏なれど、わたつ海の底にしられぬ勇氣を持し女子と見た、汝か行末も安心なり、夫婦睦しく、早く初孫をもうけよかし、われはこゝに命ある間はたちはたらきこの島の土と化し、せめてはウエブに對せるこの罪をも滅して安き心を願ふなり、ウエブが常にいひし空



Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

の鳥はつむがずあらざるんと、われもかくてあらば餓死せんことあるべからず、やくなき心配無用なりと、斷然といひはなてるありさま、岩が根のまろばしかたき氣性の見えて、橋本はわか父なからもめづらしき英雄かなと、おもへばなほ、手をひきたてても歸り度をしのびてとも〳〵島のあちこち廻り見しに袋澤の瀧見てはこゝを公園とせばよからんなど操子のいふを女らしきやさしき考へと、父と共に打笑ふ、かくて一週間計を過して再航を期し、あかぬ別れをつげて、もときし郵船に打乗りて二見の港を出帆せり

## 放言小話

愛水

### ○十二字の會名

例の呑氣なる連中打集ひぬ、さて今日は何事をか仕出でんなど云ふうち一人云ひけるに、一息にて法性寺入道前關白大政大臣と云ふこと、幾度か云ひ得ると之に應じて皆坊主の經讀が如く云ひはしめぬ、七々八度にて息つぐもあれど強きは、二十度も操かへしたるもありき、已れ曰く近頃種々の躰育會、運動會、など現はれぬれど、未だ肺の力を競ふ會と云ふもの非らず、今より日を定めて此會を開かんはいかに、一人曰くそは面白からん、然らは何とか此會を名づくべき、他一人曰く、止むを得ずんは、法性寺入道前關白大政大臣會と云はんのみと、滿座絶倒

### ○圓遊の大鼻天に踊る

靖國神社の祭禮すみし頃なりき、已れが家にて其なりの鍵屋の煙火の面白かりきと云ふ噂出でぬ、一人曰く、煙火の精巧、今はほと〳〵其極に達しぬと覺えて、或處にては生きたる鳩打上げたることありとか聞くと、他の一人曰く、さばかりのこと何ぞ精巧の極とは云ふべき、今にも落語家圓遊をば丸に仕込みて打上け、大空にてステテコ踊らすべき時出で來らんと、然らん時にこそ、彼の名高き大鼻もいよ〳〵世には知れ渡らめ、

## 文藝

## 同訓異義（續）

### マ

#### マサニ

**正** ちやうど時にあたるの意　政と通す

**將** もはや　いかさま　なにさま　又そこかへりにも用

**當** 應と同そこかへりによむ時は　かうなければならぬと云氣味

**方** そのばにむかう意　みさかりとよむときは　まつさいちうの意

**的** めあてのたがはぬ氣味　又あきらかなる意

#### マモル

**守** つきはつて目をはなさぬ事

**衛** けいごしてふせぎ　まもる事

**護** みせぬやうにして　かこひまもる事

**傅** そのそばについて居て　もりそだてる氣味

### ミ

#### ミル

**見** 目かける氣味

**觀** つら〳〵見物する氣味

**視** みんとしてまちみる氣味

**看** 目をそれにつけれんころにみる事

**覩** 見付出す氣味　見と同

**覽** 目をとめてみる氣味

**覯** あいみる事　目にかゝる事

**瞥** 目にうつりちらつく氣味

#### ミダリ

**妄** あてこともなき事

**漫** むちやりとした事、とりめもなき　めつたむしような事

# つれ〴〵草

## 可憐女　　空花生

五つばかりの小女子が
　可愛きゑみをもらしつゝ、
うたふこは音のたえ〴〵に
　母はにこ〳〵笑みませり。

母はにこ〳〵笑みませど
　さしくるまゝにほろ〳〵と、
おつる涙に小女子の
　きよき眼もうるほひぬ。

『母上いかにしませしぞ
　胸もかなしくなりつるを、』
『悲しきとてなうつふきぞ
　余りに歌のうれしさに』。

ぬぐへどつきぬ憂きおもひ
　露はまたもやほろ〳〵と
はゝの枕べうるほして
　あるは小女の手のうちに。

＊　＊　＊　＊

そのよ小女はうちにして
　人のけはひに目さむれば、
となりの叔父も　叔母びとも
　みなれぬ人もつぎ〳〵に。

こはしと思ふ叔父様も
　うれしと思ふ叔母びとも、
なみだにめうらうるほして
　うちしほれたるたゞずまゐ。

小女はあやしみおきいでゝ
　布うちかつぐ母人の、
かたへによりてさしのぞき
　『母上いかに』とさけびけり。

いらへたまはぬ悲しさに
　となりの叔母をせきたてゝ、
起ましてたべとなきだせば
　伯母は小女を抱きつゝ。

『叔母さまとてもさましえじ
　いましの母は大神の、
とふとき御手にねたまへば
　いましがこゑもとゞかじな』。

『とゞかじとても母うへの
　めさめたまはぬことやある、
昨日もともにあそびしを
　けふも歌ひてあそばんな』。

ひるはきつれど母人は
　おきいてたもふともなし、
夕へになれどはゝ人は
　ものいひたもふこともなし。

あはれ小女はそのよさり
　はゝのなきから守りつゝ、
泣きこゑからしうと〳〵と
　あはれの夢をむすびけり。

＊　＊　＊　＊

梢はしろくかゞやきて
　かざせる花もうちしほれ、
かざろにしきもうるほひて
　門出をおくることかなし。

『母はいづこにゆきますと』
　こゑのかぎりになきだせば、
叔母は小女をおんぶして
　『しづかにしませ』とゆすりつゝ。

『母は遠くへゆきませり
　あまつみかみのすみませる、
たのしき里にゆきませり
　いまにかへりてきまさんに』。

『いな〳〵ともにゆかまほし
　嬢やもともにゆかまほし、
嬢やもともにゆかまほし
　天つ御國にその里に』。

『くらき暗路もこはからじ
　母ます方にわれゆかん、
あらしふくよもつらからじ
　母ます方にわれゆかん』。



Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

『いまに嬢やもゆきませ』と
　なみだながらに叔母びとは、
泣く子ゆすりつねんね子と
　うたへばくるふねんね子よ。

ねぶればあはれ小女子は
　はかなきゆめにおそはれつ、
さむれば母よとうちなきて
　われもゆかんとよばひつゝ。

日ごと〳〵に小女子の
　母よぶこゑはおとろへぬ、
おとろへはてゝ母びとの
　ねませし床にうちふしぬ。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

しばしまどろむ小女子は
　いつしか夢にうちのりつ、
天つ使にてひかれて
　雲井はるかにゆきにけり。

月のひかりも花の香も
　母なき宿のさびしさを、
とふるはかりとにほひしを
　てらすばかりとながめしを。

ひかりのどけき園のうち
　にほひこぼるゝはちす花、
鵠鳳凰のうたきよく
　花の桂もにほふなり。

ふさ〳〵みのる木の間より
　したゝる蜜はかぎりなく、
ふす猪の床に小羊の
　むつびあそぶもおもしろし。

つきぬ望とよろこびは
　天よりつちにみち〳〵て、
うきよの色はつゆにだに
　宿らぬそののうるはしさ。

たゞよろこびにみたされつ
　小女はなほもすゝみけり、
小鳥は袖に蝶は手に
　ともにうちつれすゝみけり。

すゝむかなたに一むれの
　天津乙女ぞうたふなる、
愛のおもわはうるはしく
　衣はしろくかゞやきぬ。

小女はそばに近よりつ
　よく〳〵みればなつかしき、
小女の母もゐましけり
　むかしながらのすがたにて。

『母上嬢やもまゐりぬ』と
　やゝ〳〵小女のいひだせば、
母はにこ〳〵笑みまして
　『ようこそ來し』とのたまひぬ。

せちに思ひのたえかねて
　小女は母の裳裾にぞ、
兩のかひなをさしのべつ
　まごゝろこめて抱きける。

だきしと思ふかひもなく
　母はたちまちうせましぬ、
よべとさけべど甲斐もなく
　まぼろしのみぞのこりける。

『嬢よおきよ』と叔母びとの
　つれなきこゑに小女子の
夢はあさなくやぶられて
　燈火くらくよるふかし。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

杜の下つゆふみわけて
　北山ざとをおとなへば、
そよふく風もものすごく
　からすのこゑもあはれなり。

あるはおほきくうるはしく
　あるは萎るゝ花束を、
この世の名残とかぞふれば
　もろきは人のいのちかな。

松の木陰にあたらしく
　よそほひなせる墓ふたつ、
これぞ可愛き小女子と
　あはれの母のなごりなる。



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

# 家政

## 活風流（二）

### ○花のかをりの如し

風流を愛で、風流を味はふと、かの白川の少將の如くしてこそ高しと云ふべけれ。花月亭筆記に曰く、

風流といふは草木の花のかをりの如し、花は文にて實は實なり、花もよく實もよくば事たれども、其上にも此のかをり有りてこそ人も尊びぬれ、花實もわしくてはかをりのみよきとて何にかはせん、風流にのみ流るるものは實用に疎く事務にくらくして遂に聖教の人となるも少なからず、其風流は我程を得るを尊ぶなり、位尊き者は雨雪の山水見まほしく共、從者の勞を思ひてゆかず、よすがら月みんとてもいぬる時の程を亂さで戶おし立てぬる是を程得しとはいふなるべし、王侯より賤商に至るまで我なすべき事をなしてこそかの風流のかをりもかぐはしかるべけれ、ことに金多く費して風流の器をえんとし遊藝などにつひやしてかへりみざるなんど愚さいはんかたなかるべし、本より遊藝歌樂管絃の類ひえうなき事もなすべき事をなしての後は心に任せなん遊藝は無用の事無益の事とてにくむに甚しくやあらん、人は只だ益ある事のみするものかは、益なければとて毛髮はなくても有なんとはいはじ、天下のひろき無用の用あり、無益の益あり、などて一方にのみいはん。

### ○何とて美界を狹くするや

風雅とは、木のはし、竹の屑にも美を感じて、人の知らぬ所ろに趣を味はふにこそあらめ。左れば、俗人にも素朴の風骨はあるべく、襤褸の衣にも一種のにしきは見らるべし。人の一見して俗なりとし汚なりとするうちにも、豈に詩材なからんや。然るに、風雅を自得する似而非ものが、切りに人を罵しり、やゝともすれば他を俗として獨り自から高くすることこそ心得ね。意興と共に清くして、氣韻自から澄まば、來りて映ら

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

んもの、一つとして美ならぬことのなきものを。只だ花に吟じ、月に嘯ふき、泉石を枕にして烟霞を吸ひ、山籟溪聲に耳を洗つて樵歌漁唱にのみ調を合はするが風流なるか。さりとては、美の天地の狹まい哉。

## のみぶくろ

夜な〳〵ノミに責められて子供の安眠せぬをうれひ、ある母、はノミ袋と云ふを工夫したりける。たとへば上下一連續の股引、シヤツの如きものなるが、もとより足袋となるべき所もしつけあり、手くびにはゴムを通し、下より着して頸の處ろにて引しぼつてメる都合なりとぞ。此を用ひてより虫は一疋も身をさゝず、毎夜安眠して曉を知らぬ躰なれば、晝間は快ちよく遊んで、氣分の上にも大影響ありとなり。

## いちごのジヤム

西洋いちごは一日の品ゆへ、青ものやにても早く賣り切らんとす。自作の畠にても、さかりは短かきものゆへ、腐るも多し。此等は、安く買ふか、又は早く取入れて、ジヤムを造るべし。中の下の砂糖にて煮つめ、アキ瓶に入れて貯はふれば濟むなり。

# 書　架

## ○日本婦人 "Japanese Women."

題して「日本婦人」と云ふ英文百五十八頁の大本は、去年の米國シカゴ大博覽會にむけて、吾國の有志婦人が編輯出版したるものなり。其の目錄、並びに記載の大項を擧れば、

第一章　序文

源氏物語、姫鏡、婦人教草、唐にしき、女訓等を引きて、吾國從來の女訓の大躰をしるす。

第二章　政治に於ける日本婦人

太古。女皇。官女。鎌倉時代。平の政子。足利時代。山内ちよ子。お茶の局。春日局。村岡局。等にわけて日本婦人が政治上に及ぼしたる勢力並びに美勳を叙す

第三章　文學に於ける日本婦人

和文及漢文。日本文學の發達に及ぼせる女秀才の感化。小野小町。伊勢御息所。紫式部。名著作並に其女作者。蜻蛉日記。和泉式部日記。狹衣日記。更科日記。紫式部歌集。清少納言歌集及枕草紙。和泉式部歌集。赤染衛門歌集右馬內侍集。恒信母歌集。出羽辨集。伊勢大輔歌集。相模集。賀茂保則集。紀伊集。小侍從集。保輔母集。二條大皇后大貳集。堀川集。二條院讃岐集。利成卿女集。辨內侍日記。中司內侍日記。阿佛尼。貝原釦子。小鷹坂いさ子井上みち子。著を引抄したり。

第四章　宗教に於ける日本婦人
佛教。尼。尼の名目。祈禱。等にわかちて專ら佛教に於ける婦人の關係を說けり

第五章　家政に於ける日本婦人
幼時、妻、母、の三段に分ちて、平常の行事を巧みに綴りたり。我國にては普通の事、彼國にては尤さも珍らしき事なり。

第六章　工業に於ける日本婦人
農工商漁の各業又は各州の產物製造等の事を記載し、之に於ける婦女子の關係を說きたり。

第七章　日本婦人の遊藝
音樂のいろ／＼の樂器、おどり、茶、香、花、畫、などくさ／＼の事を記す。

第八章　明治の婦人及其慈善教育事業
東京慈惠醫院、基督教會内の諸會、華族女學校、高等女子師範學校、女子職業學校、などの起元現狀を記す

此書の編纂は數人の手より成りし由なるが、英文は同じ人の筆の跡なり。寧ろ精細に過ぎて反つて彼國人の趣味に外れたらんが如き嫌はなきにあらねど、日本婦人の特色を示したる一事は、やゝ成功したらんと思はる。

○大闢王

蕉中子、山縣雄杜三氏、「大闢王」の傳をつくる。文脉新らしく、用意極めて愼密、慘澹たる苦心歷々徵すべし、たとひ尙ほ幾分の稚處はありとも、久しからずして將に圓熟し、優に

一家を成さんとす。基督教文學界、たしかに一英才を加へたりと云ふべし。第四章、二大悲劇を叙するに及んで、同情の念湧くが如く、悔悟の德を論じて罪の辨護をあばくの用意密なる哉。曰く、

情感激烈。火の如く風の如し。僅かに文に托して胸懷を洩らし、辭に托して九腸を瀉ふ。其の文學の壯觀、天馬、空を馳するの致ある。これをトマス、カーラ井ルとす。

措辭大率ねかくの如し。

○基督教社會の新聞雜誌

基督教に緣故ある人の編輯する新聞雜誌は、左の如しとぞ、

| | | |
|---|---|---|
| 基督教新聞 | 福音新報 | 護教 |
| 女學雜誌 | いのち | わらべ |
| 福音之使 | 正教新報 | 喜びの音 |
| 眞理 | 東錦 | 心海 |
| 宗教 | 教報 | 自由基督教 |
| 六合雜誌 | 同志社文學 | 禁酒雜誌 |
| 護國の楯 | 聖書の友雜誌 | 信仰の友 |
| 日曜叢誌 | 日本評論 | 傳道紙 |
| 傳道月報 | 禁酒新報 | 北海之光 |
| 教海叢書 | 青山評論 | 共勵雜誌 |
| 基督教青年 | 初等科日曜學課 | 同志社病院おとづれ |
| 基督教新誌 | 岡山孤兒院報告 | 曉星團報告 |
| 婦人矯風雜誌 | 福音之使者 | 郵便電信報知 |
| 北辰 | 東北文學 | 大人日曜學課 |
| 聖書之友日課表 | 正教會略歷 | 文學界　評論 |
| 同志社女學校期報 | 明治女學校卒業生會報告 | |

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○女子夏期學校

は八月三十日午后四時より青山英和女學校内にて開校し、九月三日全日の女子敎育者會議を挿さみ、九月七日に閉校することと確定し、今まや講師の委頼中なりとぞ。

○一種の演劇改良

時事新報は一種の演劇改良として吾が改良談を拔抄し且つ評すらく、この改良の諸點は肯綮に中たりたるもの尠からねど惟だ惜しむらくはあまりに附屬物の方に傾むきて美術的意見の根底なきにあるべしと。吾黨はたゞ行われべき區域に於て策を立てたる耳、もしたゞ理想を言わんとせば、不肖豈に美術上に多少の理想なしとせんや。

○進歩的女子敎育の大同盟

敎育時論、女學雜誌の「女子敎育大勢一轉の機」を評して、進歩的女子敎育の大同盟を造るは、寧ろ造らざるの優れるに若かずと言へり。吾黨は不幸にして敎育時論とすら屢ば説を異にす、况んや其他の敎育者とをや。

○本意ならぬ賛同の聲

正敎新報「評論」が「基督敎界の革新」を引證して、切りに「新敎界内排外的の偏派心に感染せし人士を責むるに」賛同の論料となす。深意、言外になからずや、不幸にして矯激の語となり、採て以て西洋派の材料とせらる。豈に評論子の本意ならんや。

○囑望す合雪大將

文治派望みを落して、武斷派いよ〳〵名あり。時に半島に事あり、合雪大將豈に天の運指に合ふものにあらずや。老西郷城山に沒するの日まで、君が書を懷ころにせり。今にして長州西郷たらんもの或いは君か。希はくは自重せよ。

○治安妨害の故障

東學黨中に、日本人ありと麗々しく書き立つるものも愚なれど、何故へ政府は之に注意を加へざるか、國安保護とか云ふは此邊の事にあらずや。




Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

# 海外女報

**佛國公使館附の役員**　　は公使の許可を經て、始めて結婚す可し、違背せる輩は直ちに解雇すべき旨申渡されたり。其理由の如何を問ふに、外官が異邦の人を娶りたる時は、大切なる秘密を漏す危險ある爲なりと。

**萬國基督敎婦人禁酒會總理ウィラード孃**　　は英國にて病痾療養中の處、大に恢復されたるに由り、本月中旬には、同國出發、歸途に登らる筈なり。

**禁酒事業**　　の近來進步の道彌々開け、益々江湖の眼を惹きて、協力に熱心せしむるとは左の事件によりても認め得べし。第一に婦人外國傳道會社の機關雜誌中近年、新たに傳道地の禁酒事業てふ欄を設けしもの第二に、紐育市に名ある、センチュリ雜誌に學術上、統計上いと精密なる論說を掲げしとなり。

**仕立屋**　　戰爭は其何の主意たるに係らず野蠻の遺習なり。武器武具の新發明は元來戰爭に便ならんが爲なれど結局戰爭の無用を敎へ、萬國大事を致すの機械ならん。獨國の仕立物師の發明せるコートは正しく銃丸を彈くものなる由。仕立師自らこれを着用せし上筒先を已に向けて發射せしめしに、銃丸は悉くコートの布目に埋りて一切皮膚には觸れざりしにて充分の保證は出來たり。然るに其質の何物たるかは今に知る人なし。



# 時報

## ◎學校、敎育

●清流女學校の卒業式　名古屋なる同校に於ては、去る十二日第三回卒業證書授與式を執行したり、卒業生は左の如し

中泉澄子　梶原俊子（全科）　長谷川君子　福澤照子　見田胤子　角淵鐵子（選科）

●德山女學校　長門なる同校にては、去る廿八日第四回卒業證書授與式を執行し郡長村長を始め、數十名の地方有志家來集し頗る盛んなりしさ

●普國小學校の女敎員　千八百九十一年の調査に據れば普國小學校男女敎員の總數は十三萬一千四百八十七人内八千四百三十九人は女敎員にして此の女敎員中既婚者は僅に十九人外に配偶を失ひし者九十五人を除き其の餘は盡く未婚者なり（二十五才未滿女敎員には既婚者一人もなし）二十才以下六十五才以上の女敎員中未婚者の年齡別は左の如しと云ふ

| | |
|---|---|
| 二十才以下 | 七七 |
| 二十才以上二十五才未滿 | 一二四四 |
| 二十五才以上三十才未滿 | 二二五五 |
| 三十才以上三十五才未滿 | 一七四八 |
| 三十五才以上四十才未滿 | 一一九〇 |
| 四十才以上四十五才未滿 | 七三四 |
| 四十五才以上五十才未滿 | 五一九 |
| 五十才以上五十五才未滿 | 三〇〇 |
| 五十五才以上六十才未滿 | 一五四 |
| 六十才以上六十五才未滿 | 七六 |
| 六十五才以上 | 二八 |

合計未婚女敎員八千三百廿四人

●女生の體操男生の唱歌　大日本敎育新聞、說を爲して曰く女子の体操は、今少しく女子の嗜好に適せる樣に、改正し、男子の唱歌も、亦今少しく、男生の嗜好に適せる樣に、改正するの切要を感ずるなり、男生にかの幼稚園的の唱歌を課するは、猶ほ女生に課するに兵式體操を以てし、擊劍槍術を以てするさ、異曲同工さもいふべき、兩極端に趨るものたるを免れず、吾人、常に以爲らく、体操は、男子專有のものたり、是に於て乎、女子の爲に、特例を設くるの必要あり、唱歌は、女子專有のものなり、是に於て乎、男子に課するに一種の特例を設くるの必要なかる可らず、然るに、唱歌を課するさいへば千篇一律、毫も彼是取捨する所なければ、男子を女化するの弊なしとせず、世人は、女子の男化するを喋々しながら、男

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

子の女化するを、不問に置くは、不都合なり、斯かる不都合あればこそ、男生の嗜好は、唱歌に向はず、女生の嗜好は、躰操に向はず、男女生徒の嗜好如何は、以て改良革正すべき工夫を要するをトすべし、吾人は、女生躰操は、一種の態度、即ち婦人特有の美を損せざる點までに於て、强壯を養ふの工夫を用ひ、男生唱歌は雄壯活潑の氣力を養ふに足るべきもの、即ち軍歌を用ふるに至らば、二者各嗜好に適して、其收むるところの効果も、蓋し異常なるものあらん、と

●看護學教授法　廣島縣廣島市中町なる博愛病院にては、此程看護學教授法なるものを設け、本月より有志婦人に教授し來れりと

●子守教育　女兒教育の普及に關して最も困難を感ずるは想ふに家内の事情到底女兒をして專ら身を學事に委するを許さゞるに在る可し、大凡そ中以下の家に在ては且晡伊親を扶け若しくは弟妹の監護をなす等女兒のなさゞる可からざる事頗る煩多なるより或は學に就く能はざる者有り或は中途にして廢學する者有りて哀々たる女子、一生を無智無學に終る者滔々皆然らざるは無し、去れば若し家事の餘暇之れに學業を授け、以て其の智能を啓發するの方果して有りたらんには其の社會の裨益たる蓋し尠からざる可し、秋田縣雄勝郡皆瀬村尋常小學校藤介分教室に於て實施しつゝある子守教育なる者の方法を聞くに頗る面白ければ左に揭ぐ

◎編制　單級なり◎生徒數　三十二人內女十四人學齡未滿のもの三人あり◎日々子供を負ふて來るもの七人あり◎子守生徒の年齡　十一二歲にして多分は女子なり◎稚兒の年齡　多くは三四歲なり◎出席の狀況　一ヶ月十六七日乃至廿一日◎通學距離　七八町を遠しとす◎哺乳時　飲食時は必ず歸宅し近傍のものは時々歸ることあり◎教場管理　稚兒の爲め多少混雜を免れずと雖も日々のことなるを以て他生徒も之れに慣れて甚しく害を爲さず◎子守の席　同年齡位の女子と同机なる方便利なり◎學業の進步　時々授業を稚兒に防害さるゝも年齡長せるを以て進步速かなり◎授業中小兒の啼泣するときは屋外にて之を慰む稚兒三四歲にして教場若しくは生徒控所に於て運動するを得るものは最も少し◎右の如くなるを以て三四十人の學校にて生徒授業の害をなすこと極めて少し◎五六歲の稚兒兄姉に伴ふて來るものは是又其害を見す◎子守は男子よりも女兒の方保護綿密にしてよろし

右の取調によりて之を見るときは全生徒三十二人中女子殆んど其半を占め僻陬の分教室としては實に得難き數にして全く前方法の賜なり世の子守教育の至難を訴ふるものは通常生徒と同一に教授すべからずといへども前の取調によりて之を見れば通常生徒と同一に教授をなし害を見ること甚だ少しといふ是れ教育者の輕々看過すべからざる一事なる僻陬にして生徒員數の寡き學校に於ては宜しく實驗すべき價値あるを信ず(岩手公報)

●大日本教育會夏期講習會　神田一ツ橋通なる大日本教育會にては例年の通各學校の夏期休業を機とし來る八月一日より同三十一日迄夏期講習會を開く由にて其講習學科及擔當講師は左の如く定りたりといふ

一教育學湯本武比古、一地理野口保興、一東洋歷史那珂通世、
一國語落合直文、畠山健、一水產松原新之助、一單級教授法勝田松太郎

●松平伯爵の女學校參觀　舊高松藩主松平伯爵には、令夫人を始め家扶老女一同を召し連れ去る三十日、高松市高等女學校を參觀せられ、令夫人には女子教育に就て職員に益熱心に盡力すべき樣との談話ありしと

●兒童の遊戲法　紙を折りて種々の物形を造るは、一は手指の練習となるを以て大に之れを勸奬し、時ありては兒童の知らざるものをも教えたり、然れども是も間もなく厭きて更に「笛を造りて吹鳴らすこと」流行せりそは大筆の軸若くは直徑六分許長さ三寸許の竹を持ち來り、笛の仕掛をなして教室內を吹き廻はるなり此遊戲は餘り宜しからずと認め之を中止したり、尋て「革囊を肩に掛け郵便配達夫の眞似をなせり、其配達物は紙片に種々の文句を書きたるもの、而して之を受くる爲め各自の卓の横に小さき箱を掛けたり、是れ曾て作文科に於て郵便取扱に關する談話をなしたるによるならんか、余は此遊戲を利用せんとして一の郵便函を造り、教室內に置き、而して各自をして書狀又は作文端書を投せしめたり、始めの程は投書山の如くに集りたれど、漸く日子の過ぐるに從ひ減少し、時方に冬季休業に際したれば、之を一期として遂に止みたり、其後勸奬したれども間々投函するのみなりき、冬季休業も了りて一月の教授は始まれり、休業中流行の餘波として「福德撰き」大に流行せり、然し有害と認め之を禁したり、尋て「腰掛を立て消防夫の梯子昇の眞似をなすこと」起れり、是れ或は消防夫新年出初式の景況を見たるか故ならんか、併し危險の憂あるを以て之を止めたり、其後作文科に於て電信に關する談話をなしたりしかはやかて卓の下に繩を張り電信の眞似をなせり、是れ教授時間中の妨害となるを以て之を止めたり、尋て「小形獨樂若くは算盤粒珠に軸を排め、之を廻はすこと流行せり、現今尙止まず、男兒は兎角雜沓するを好むものなれど、教室內に於て雜沓せしむるは宜しからずと考へ、時には有益無害なる積木類を持參せしめ、休憩中之を築せしめたり、然れども彼等か新奇を好むの癖として間もなく止むるには大に困却せり、兒童が休憩中の仕事として終始一貫未た厭かざるものは「習字會」のみなりき、そは各自隨意の文字を白紙に書し、之を綴りて一冊となし、雜誌躰に裝ひて號數を附し、以て教師に批評若しくは配點を請ひ、各自の優劣を較ふるなり、併し是れ遊戲と見做さんよりは寧ろ習字の練習と見て可ならん(北陸教育佐藤文太郎)

●順正女學校の新築　備中高梁なる同校は追々盛大となるにつけ校舍新築の必要を來し左の如き趣意書を發して普れく寄附金を募集する由

女子教育の必要なるは勿論而已今日に及んで之を言ふ或は日の已に亭午を過ぐるに方つて遽かに起て曉鐘を撞くの笑を免れざらんか然るに過去七八年間に於ける我邦女學の形跡は大に吾人の心をして惑はしめたりき顧ふに當時に在つて邦人多



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

くは歐米人の言ふ所は皆な是にして善なり歐米人の行ふ所は皆な是にして善なりと爲し其男女の際に於けるも亦た歐米人の云爲する所は此の如しと云ひ其婦女の學に於けるも亦た歐米人の云爲する所は此の如しと云ひ東洋西洋自ら國風の一ならず人情の同じからざるものあるを忘れ一に皆な歐米人に之れ摸倣し以て其計を得たりとするの傾向ありき是に於て乎女子の教育婦人の養成頗る社會の用に適せず家の務に應せざるものあるに至れり學は妄に高遠に馳せて却て卑近の事を遺し藝は徒に浮華に流れて寧ろ實地の用に適せず且つ其德育の如きは古來日本婦女が特有の優美なる貞淑の風俗を消滅せんとするの現象を呈せり事實既に此の如し遂に世人をして婦人の養成なるものは總て世道に益なきかを疑はしめたり啻に世道に益なきのみならず寧ろ人心に害あらんかを疑はしめたり是れ前二三年來女學の大に衰微せる所以なり然れども女子教育の事決して忽にすべからざるものあり學は以て智を研き德を脩め藝は以て身を立て家を斉ふるを目的とするもの妻としては必らず良妻たり母としては必らず賢母たるを得ん此の如きの教育は國家に於て一日も欠く可らざるの急務にあらずや我順正女學校夙に玆に見るあり確く此の主義を取て惑はず變せず深く浮華に流るゝを滅み切に高遠に馳するを戒め十年一日以て事に此に從へり回顧するに明治十四年七月始めて此の基業を置きしより今明治廿七年に至つて既に十有三星霜を閲せり其間全國至る所に女學校の建設せらるゝもの枚擧に暇あらず而して多くは其教養の目的を誤り日又一日廢滅相次ぎ其今日に存するもの蓋し幾くもあるなし嗚呼我が順正校は實に幾多女學校興廢常なきの間に卓立して曾て變轉衰頽を見ず愈よ昌へ益々盛なる所以のものは其教育の主義養成の方法亦た少しく社會の用に適し家の務に應するものあるによらずんばあらず現に我校の卒業生にて出ていは人の師となり嫁しては人の妻となり皆其任務に適せざるは莫し今や我校百數十人の生徒を有し教場寄宿舍頗る狹隘を告げ一人を容るの餘席なし是れ實に今回校舍新築を企圖するの已む可らざる所以なり願くは大方有志の諸君我校が主義とする所の在る所あるを察し我校が經歴せる所の終始常あるを鑒み來つて此計畫を贊助し給はんことを敢て懇請す

但御寄付申成候金員は最初に四分殘額六分を二ヶ年間四度即ち毎年六月十二月の兩度とし御拂込み成被下度候也

## ◎片々

●アシチル女史の禁酒演說　巾幗の身を以て懸軍万里主義の戰場に馳驅す意豈に壯ならずとせんや万國婦人矯風會遊說員アシチル女史の一行は去廿一年九月故山を倜々の中に見、大西洋を渡りて歐洲大陸を經、印度地方を巡り濠洲に至り、昨年十月万國博覧會に際し報告を持して歸米し直に再び歐洲に渡り印度を過て過般本邦に來着せしが去三日午後二時より婦人矯風會の催にて數寄屋橋教會にて一場の禁酒演說をなせり女史容貌偉ならざるも万里の長途毫も倦厭の色なく霜白斑點眞氣逆々人に迫り、沈痛謹厳徐ろに口を啓て今は旅行中の珍談奇話を寬め語るの閑日月なし徑進直入其遊說の本領たる矯風事業に付て陳ぶべしとて矯風即撙節てふ語は加拉太書五の廿三に起りし者にて此語を採り來て其會名に附せしものなることを陳べ只に酒のみにあらず阿片戰爭等術も害毒を社會人類に流布するものに向て學生の力を加へて排除するはその主義本領なりといひ進で飮酒の害を陳べて禁酒不如節酒との論者を辨破し更に步を進めてその害を指摘して、第一人を惡にし第二人を殘酷にし第三人を賤しむへきものとなすと論じ遂に進で酒と醫藥の關係に付て或醫師の酒を以て一種の興奮劑として用ゆるは可なりとの說は未た一定せざる說のみとし自己の醫師たる立場より道德上酒不可用と斷言し回轉して如何にせば禁酒の實効を奏するやを陳べて第一禁酒團躰を組織する事第二小兒教育上其害の恐るべきを知らしむる事第三法律の力を借る事となし終りに禁酒事業妨害となる頑固的人物情慾的奴隷人物のためには此惡覺を驅逐するに聖靈の力の必要なる事を陳べて局を結べり言辭剴切熱誠面に溢れ演說殆んど四十分間に涉りて降壇せり聽衆殆んど四百餘名滿堂に無限の感慨を與へたるもの丶如し、當日はアンドリー女史も演說ある筈なりしが長途疲勞のため見合せられたり(基督教新聞)

●東京美以婦人慈善會　府下京橋區西紺屋町銀坐會館内なる同會は、府下の貧民にして美以各會主任牧師の紹介あるものには、衣類、金錢、醫藥等相當の救助を與ふる由

●三井銀行大坂支店女子を採用す　三井銀行大坂支店長高橋義雄氏は曾て各銀行懇親會に於て金庫取扱ひに女子を採用するの利益あることを演說せしことありしが今回同支店に於ては愈よ金庫取扱に十四歲前後の女子を採用するとに決し去月廿日頃より身元取調の上五名の女子を採用せり今其取締方法を聞くに事務室は更なり食堂に至るまで凡て男子部と異にして老年なる男子一人之を取締れり元來女子は男子と違ひ性質綿密にして且つ小心なるを以て金庫を取扱はすには間違の起る虞少なく男子より給料も餘程低きを以て其利益少からずと云ふ(讀賣)

●酒造家より撰出の代議士　第六議會の代議士の中、酒造家より撰出されし人々は、金井貢、山田嘉穀、安田銓太郎、天野伊左衛門、加賀美嘉兵衛、和田彥次郎、渡邊芳造、渡邊敬生、齋藤卯八、松本長平、鴻本義憲、石田貫之助の諸氏なりしと。

## 孤兒の友

一金三圓　王子村孤女學院へ寄附　澁谷村赤十字社病院内矯勵會員　佐藤梢子外數名

# 新版歌書廣告

大勳位山階宮晃親王御題字
御歌所長高崎正風大人序歌
權掌侍税所敦子刀自序歌
谷勤大人序文
池袋清風大人普

## 歌學標準 淺瀨の波

第二編 全二册
正價金三十二錢
郵税四錢

本書は方今和歌専門の大家として有名なる案山子廼舍大人の詠及全國に散在せる其社中男女三百餘名の詠七万餘首の内より九十三名の秀逸を精選し併せて大人の歌友大家十餘名の妙吟五百七十餘首を集錄せられたる歌集なり初篇は既に六年前世に出て大に風流雅客の嘆賞を博し世人の傳唱する所茲に贅せず

發行所 女學雜誌社書店

松村介石先生序
山縣雄杜三君著

## 大闢王

近日發賣
定價十八錢
郵税四錢

是れ、悲哀、苦痛、忍耐、信仰、愛、感謝の生涯をわたりしイスラエル詩王の傳記なり

英國の詩狂スマートが瘋癲院の壁上に歌ひし『少童、勇士、祭司、古聖』、多調、「ドラマ」の如き生涯をわたりしダビデ王の傳記なり。

卷を分つ四。牧童の卷。青年の卷。治世の卷。晩年の卷。著者が艶麗なる筆端に、イスラエル詩王ダビデの生涯、燦然として紙上に在り。

賣捌所 女學雜誌社書店

農學士米國理學士内村鑑三著

## 地理學考

地圖入
定價三十五錢
郵税六錢

第一章 地理學研究の目的
第二章 地理學と歴史 總論、山國論
第三章 地理學と歴史 本原論、海國論
第四章 地理學と攝理
第五章 亞細亞總論幷に西方亞細亞
第六章 歐羅巴論
第七章 亞米利加論
第八章 東洋論、支那、印度
第九章 日本の地理と其天職
第十章 南三大陸

此書は十數年間に渉る著者の思考より成り地理學上の事實に下すに歴史的、哲理的、宗敎的の觀察を以てせしものにして常に乾燥無味を以て稱せらるゝ斯學を優麗味ふべきものとして世に紹介せしめしものなり

發兌 東京新橋出雲町一 警醒社書店

賣捌所 女學雜誌社書店

## 東京產科婦人科病院

東京神田區駿河臺袋町十三番地
(小松宮殿下邸前)

院長 醫學士 増田知正
● 診察時間 午前七時ゟ十二時迄

副院長 水原漸
● 診察時間午後一時より四時迄

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

# 評論

每月一回發兌
六月五日發兌

## 第二十五號目錄

博愛的愛國心の論
　條約勵行論者に警告す
强兵の策豈錢を要せんや
議會の爲すと無き亦た一の國益なり
生死論
透谷北村君を弔ふ
願くは花下に死せん
慈善事業の進步を望む(舊稿)北村門太郎
春の夕(河内、魚ぬの)
米國法庭の不法、同胞の屈辱(江東居士)
敎育上方今の難問題
地理學考
髯の自休
自主的外交
「二百年後の吾人」を評し併せて
　强者の權利の競爭及び道德法律の進步に對する元良中島兩
　敎授の批評を讀みて一二の所感を述ぶ(布川靜淵)

發賣所　女學雜誌社書店

---

女學雜誌定價表

| 冊數 | 定價前金 | 市外定價郵稅共 |
|---|---|---|
| 一冊 | 金六錢 | 金六錢五厘 |
| 十冊 | 金五十八錢 | 金六十三錢 |
| 廿六冊(半ヶ年分) | 金一圓四十三錢 | 金一圓五十六錢 |
| 五十二冊(一ヶ年分) | 金二圓六十錢 | 金二圓八十六錢 |

一本誌購讀者は代價郵稅共凡て前金御拂込之事前金御拂込無之御注文有之候共一切送附不仕候
本誌代價郵稅共郵便小爲替にて拂渡局を必らす

## 一ッ橋郵便爲替取扱所へ宛御振込の事

一請取人は神田區表神保町六番地女學雜誌社と御記入の事。
一郵便切手代用は一割增(五厘切手に限る)にて申受候
本誌御注文の節は住所姓名を明瞭に記載し號數は何號より何冊分と詳細に御書添への事

東京市神田區表神保町六番地
發賣所　女學雜誌社書店
東京府北豐島郡王子村下十條八百五十一番地
發行所　女學雜誌社
編輯兼發行人　巖本善治
印刷人　堀口庄三



東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地秀英舍工場印刷(電話十九番)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY